

理事長就任にあたり



理事長 渡邊 円世

本年6月24日をもって社会福祉法人紫雲会の理事長を拝命いたしました。

前任の麻生亮一理事長は平成2年3月に就任され、31年もの長い間、ご活躍いただき、今日の紫雲会を築いて下さいました。また、医師として常時利用者の皆様の健康に注力されました。この間、紫雲荘、本城苑、三国寮の三施設とも新築し、理想的な姿となりました。そのご功績は偉大であります。改めて深く感謝申し上げます。

さて、紫雲会は昭和44年11月の開設以来、51年の歴史と280余

2021年 9月
第28号

発行：社会福祉法人 紫雲会
住所：大分県豊後大野市
三重町本城2050番地
TEL：0974-24-0011
FAX：0974-24-0055

ホームページ
<http://siunkai.com>



名の職員の他、多数のボランティアの方々により運営されています。理事長交代しなくても、従来からの着実な運営を引き継ぎ、更に新型コロナウイルス対策等、社会の動きに迅速かつ適切に対応し、利用者及び全職員等が笑顔で心豊かに過ごせるよう、共に努力していく所存です。

これまでの長い歴史により職員の皆さんは研修を重ね利用者の方々に寄り添ってきました。おかげさまで利用者及びご家族から高い評価をいただいていると認識しています。この評価におごることな

く、より一層の精進が期待されます。さらに、できるだけ体調を調べて、より良く安定して穏やかに利用者に接することが出来ますようお願いしています。

申すまでもなく社会福祉法人は国、県、市等の支援を受けており、極めて公共性の高い団体です。

改めてその公共性と地域社会と共にあることの認識を深めたいと思います。

どうか関係の皆様の変わらぬご支援を切にお願い申し上げます。



理事会・評議員会を開催 決算並びに事業報告を承認 新たな執行体制を確立

令和3年6月9日に第2回理事会を、6月24日に第1回評議員会を開催し、令和2年度の事業報告並びに決算報告が承認されました。

理事会・評議員会ともに、新型コロナウイルス感染症の影響に関する議論が交わされ、各部門からの報告では、感染防止のため面会やボランティアを制限している状況の中で、ご利用者のストレスを軽減するために工夫していることや、ショートステイなどの利用率が低下したことで、事業収入が当初の予想を下回ったことなどが報告されました。

また、今回は定時評議員会の終結と同時にすべての役員の任期が終了することから、評議員会に先立ち、評議員選任・解任委員会が開催され、七名の新評議員が選任され、評議員会においては新理事、監事を選任、続いて開催された第3回理事会において、新理事長に渡邊円世氏が選定され、紫雲会の新たな執行体制がスタートいたしました。

役員・評議員・職員代表による
合同懇談会を開催

紫雲会の新体制発足から間もない7月13日、役員による合同懇談会を開催し、20名の役員の方にご出席いただきました。冒頭、渡邊円世理事長が挨拶に立ち、懇談会の目的と意義、そして、役員員の結束した力で法人の発展と地域への貢献に力を尽くしたいという抱負が述べられました。

続いて、出席者全員の自己紹介が行われ、その後、法人本部より「社会福祉法人の使命と紫雲会の概要」について説明がありました。

皆さん、もともと福祉に関りがある方ばかりで、施設の機能や役割については理解していただいています。その経営母体である「社会福祉法人」の位置づけとなると、認識を新たにされている方もおられました。本部の説明に続いて質疑や意見交換が行われ、入所を待っている待機者の状況や、職員の研修体制等について質問が出され、各施設の代表が現況を説明いたしました。

今回は新任の理事、評議員の方も多く、率直な意見交換を通じて、お互いの理解が深まり、有意義な機会を得ることが出来ました。



新役員を選任、新たな体制でスタート

6月24日に新たな役員体制が発足しました。社会福祉法人紫雲会は1969年の設立から50年が経過し、人々のニーズや、解決すべき社会的課題もますます複雑で多様化しています。

今後も、社会福祉法人の社会的使命を果たすべく、新たな50年に向かって研鑽してまいります。

役員並びに評議員・幹部職員を紹介

理事長	渡邊 円世	評議員	大津留 寛
理事	三浦 孝光	評議員	鎌倉真由美
理事	平井 庸夫	三国寮施設長	衛藤伊都代
理事	三浦 光子	本城苑施設長	廣瀬 政明
理事	安達 直	障害在宅所長	足立 貞二
(紫雲荘施設長)		高齢在宅所長	麻生須奈光
理事	羽田 正司		
(法人本部事務局長)			
監事	佐藤喜代明		
監事	神田 武		
評議員	波津久博樹		
評議員	黒田 栄一		
評議員	首藤 正史		
評議員	古畑 玲子		
評議員	赤嶺 信武		

紫雲会の理念

1. 紫雲会は、「誠実」「信頼」「貢献」を基本とし、地域の皆様に親しまれる法人を目指します。
2. 紫雲会は、地域における福祉の充実に貢献するため、健全で活力のある経営を目指します。
3. 紫雲会は、福祉サービスの担い手としての責任を自覚し、地域のニーズと誠実に向き合い、人々の安心と社会の発展に寄与します。

放課後等デイサービス「ぽっけ」運営開始

児童発達支援管理責任者

本田 博之

小学生から高校生までの療育が必要と認められたお子さま、もしくは、その心配のあるお子さまを放課後や夏休み等の長期休暇中において、お預かりする施設として、関係者他、皆様方のご協力の元、今年3月1日より開所しました。

ぽっけでは、創作活動、ルール遊び等、お子さま方が楽しく、安心して過ごせる場所を提供しています。ぽっけという名前の通り、ここでの遊びや活動を通して経験した事や学んだ事をぽっけにしまい、お家に帰られますように、そして、ぽっけにしまった経験や学んだ事がきっかけとなり、お子さま方の世界が広がり、将来の夢に向かって羽ばたけるよう願いをこめて、スタッフ一同支援を行っています。



後藤久美子



本田 博之

職員紹介

- ◆ 管理者 廣瀬 政明
- ◆ 児童発達支援管理責任者 本田 博之
- ◆ 保育士 後藤久美子
- ◆ 指導員 鯨越 美香
- ◆ 指導員 多田 佳世



鯨越 美香



多田 佳世

遊びの中で、洗濯物を畳んだり、料理やおやつを作ったりしながら生活活動に取り組んでいます。療育を通して、それぞれが得意とする創作活動や、興味・関心を持っている物を引き出せ

るように声掛けをし、一緒に経験を積んで、毎日充実した日々が送れるように支援しています。
※夏季休暇中の水遊びや、洗濯物畳みの様子、子どもたちの作品を載せています。



「人間を救うのは、人間だ」

献血に協力しました

8月31日、大分県赤十字血液センターの要請により、献血に協力しました。

新型コロナウイルスの感染拡大が世界中に広がった昨年、人々の外出自粛と共に、献血に協力する方が減少し、輸血用の血液不足は深刻です。

紫雲会では、今年1月20日に続いて2回目の協力で、仕事の合間の時間を調整して、29人の方に協力していただきました。

「人間を救うのは、人間だ」これは日本赤十字社のスローガンですが、私たちが行う社会福祉事業にも通じるスローガンだと思います。ご協力をいただいた方、有難うございました。



特別養護老人ホーム 紫雲荘

「東西南北」で繋がる小学生との絆



紫雲荘に入所されている小川明子様は、昨年から大分合同新聞のコラム「東西南北」の書写に毎日取り組んでいます。

昨年7月、大分合同新聞社の取材を受け、7月22日の記事に掲載されました。

その新聞の内容を見て、宇佐市立封戸小学校の生徒の方から手紙が届き、交流が始まりました。今年3月には、ユニットでリモート交流会を開くことが出来ました。

さらには、大分市立長浜小学校の生徒の方との文通も加わり、「小さな友達が出来た！」と小川様も喜んでいきます。現在も心温まる交流が続いています。



【2020年7月22日掲載記事】



小学生から届いた手紙やプレゼントを大ホールで展示中です。



のりか。

紫雲会の将来を担う皆さんには、継続的な自己研鑽を期待したいもの。

20日は本城苑の廣瀬施設長より「権利擁護」、そして三國寮の河内看護師長より「感染症予防」についてそれぞれ講義があり、福祉職員としての基本的な倫理観、並びに感染症対策について学びました。

紫雲荘の芦刈相談員から「事故防止」、三國寮の衛藤施設長から「身体拘束廃止」について講義があり、受講者全員で、ご利用者の安全を守ることを確認することが出来ました。

4月21日と28日の2回にわたり、法人の新人研修が開催され、今年度採用職員を中心に、1日目は19名、2日目は18名の職員が受講しました。

新人研修を開催しました

盲養護老人ホーム 三国寮

7/30

夏のお楽しみ会

皆さんからスイカ割りや魚釣りをしてみたいとの要望があり催しました。裏に番号が書かれた魚を釣ったり、たくさんのお菓子に紛れた折り紙の金魚をうちわですくったりとゲームを思いきり楽しみ、最後はスイカ割りをしました。勇士が次々に挑戦！思うように当たらなかつたり、当たっても割れなかつたりして大変盛り上がりました。割ったスイカはお昼のデザートにして美味しく頂きました。「楽しかった」と笑顔がいっぱいで、いつもと違うお楽しみ会はとても好評でした。



8/3

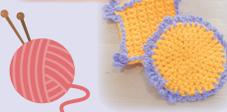
おやつ作り

暑いこの時期のおやつは何といってもかき氷。削りたてのフワフワの氷に、好みの蜜とアイスや小豆をトッピングします。スプーンでサクサクと音を立てながら「冷たくて美味しい」と嬉しそうに口に運んでいました。なかには全種類の蜜が食べたいと3杯食べた強者もいましたよ。「どれも美味しかった」と満足そうでした。



手芸クラブ

7月はアクリルたわしを作りました。職員が編み方の説明をして、完成品を触ってイメージしてもらいました。皆さんすぐに覚えられ、今ではアレンジした形も作っています。



障がい者支援施設 本城苑

今日はお弁当！



外出もなかなか出来ない中で、少しでも利用者の皆様に外出気分を味わってもらおうと、手作りお弁当を作りました。普段とは違うメニューで皆様も驚いていました。が、美味しく頂きました。



七夕の飾りつけをしました

6月29日に、七夕の飾りつけをしました。短冊には、「コロナ退散」「お出かけした」「美味しいものが食べたい」と書かれています。皆さんの願いが叶いますように・・・☆



鯉に会いに行きました

白杵市の吉四六ランドにドライブ外出。池に大きな鯉を発見し皆さん大喜び。池に落ちないように注意しつつ、手を伸ばしたりして楽しまれていた様子でした。



法人研修(衛生講話) 食中毒予防



- ④ 持ち込まない
- ③ 殺す(加熱・殺菌)
- ② 増やさない(迅速・冷却)
- ① つけない(清潔)

豊肥保健所衛生課・食品衛生事業の衛藤主幹をお迎えし、食品衛生講習(食中毒)を受けました。講習では、病因物質や、中毒を起こした施設の実例などを含めながら、食中毒予防の4原則を確認しました。医療介護・食のプロである私たちが、特に自己管理を徹底し、食中毒予防に取り組んで行きたいと、改めて考えなおす機会となりました。



令和2年度 社会福祉法人紫雲会 決算報告

貸借対照表

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	1,818,575	流動負債	132,473
固定資産(基本財産)	1,665,876	固定負債	205,968
その他の固定資産	1,095,662	負債の部 合計	338,441
		純資産の部	
		基本金	135,422
		国庫補助金等特別積立金	555,068
		その他の積立金	674,000
		次期繰越活動増減差額	2,877,181
		純資産の部 合計	4,241,672
資産の部 合計	4,580,113	負債及び純資産の部 合計	4,580,113

資金収支計算書

(単位：千円)

科目		社会福祉事業・公益事業
事業活動による収支	事業活動収入	1,428,164
	事業活動支出	1,401,806
	事業活動資金収支差額	26,358
施設整備等による収支	施設整備等収入	13,762
	施設整備等支出	54,331
	施設整備等資金収支差額	△40,569
その他の活動による収支	その他の活動による収入	6,490
	その他の活動による支出	11,684
	その他の活動資金収支差額	△5,194
当期資金収支差額		△19,405
前期末支払資金残高		1,787,403
当期末支払資金残高		1,767,998

事業活動計算書

(単位：千円)

科目		社会福祉事業・公益事業
サービス活動増減の部	サービス活動収益	1,420,457
	サービス活動費用	1,492,554
	サービス活動増減差額	△72,097
サービス活動外増減の部	サービス活動外収益	7,706
	サービス活動外費用	1,650
	サービス活動外増減差額	6,056
経常増減差額		△66,041
特別増減の部	特別収益	12,738
	特別費用	10,939
	特別増減差額	1,799
当期活動増減差額		△64,242
前期繰越活動増減差額		2,941,423
次期繰越活動増減差額		2,877,181

事業の概要

◆ 第一種社会福祉事業

特別養護老人ホーム紫雲荘
盲養護老人ホーム三国寮
障害者支援施設本城苑

◆ 第二種社会福祉事業

紫雲荘デイサービスセンター
ホームヘルプセンター紫雲
サポートセンターサライ
本城苑作業所Beハウス
グループホームコスモス
紫雲荘ショートステイサービス
放課後等デイサービスぼっけ

◆ 公益事業

介護保険サービスセンター紫雲
就業・生活支援センターつばさ

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。オリンピック・パラリンピックでの日本選手の活躍に感動しつつも、この夏、故郷への帰省をあきらめざるを得なかった多くの人々を思うと、諸手を挙げて喜ぶのは憚られ、心は快としません。子供たちがマスクを外して駆け回る日がやがて来ることを信じて、しばらくは我慢の日々です。

(は)